

1 取組名称

多摩の里山学 ～首都大学東京南大沢キャンパス 松木日向緑地で学ぶ～

2 取組組織等

都市環境学部自然・文化ツーリズムコース

都市環境学部地理環境コース

都市教養学部理工学系生命科学コース

都市教養学部人文・社会系国際文化コース歴史考古学分野

3 取組実施代表者名

都市環境学部自然・文化ツーリズムコース 教授 菊地 俊夫

4 取組年度期間

平成 28 年度

5 取組の概要

近年、都市近郊に残る里山緑地をいかに管理保全し、適正利用していくかが大きな課題となっている。その課題の解決には、単なる保全手法ではなく、里山環境を総合的に理解し、地域財産としてどう管理・活用していくかを学ぶとともに、そのためのアプローチを実践的に身につける必要がある。そこで今回、南大沢キャンパス内にある松木日向緑地を環境教育の場として活用し、総合的・学際的、かつ実践的なプログラムを提供する。

具体的には、「里地里山の生態系」、「多摩の歴史」、「都市化の問題」、「生物多様性の保全」、及び「環境資源の適正な利用と活用」をキーワードとして、人と自然の関係、現在の環境問題、生物多様性の保全、及び緑地空間の多機能性について知識を深め、大都市が抱える諸問題への応用や適応を図る機会とする。また、ササ刈や竹林伐採、あるいは下草刈や間伐などの保全活動、竹炭作りや木工細工などの資源の利用を地域のボランティア団体等と共同しながらフィールドワークを展開する。

6 事後評価の総合評定

4. 0 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 南大沢周辺の地域を対象とした生態系・歴史・都市化・環境等の問題についてフィールドワークを中心とした授業の提供を行う、という文理融合的に行う取組である。
- 分野横断的プログラムを構築し、又、地域との連携も行いつつ、参加学生に対して教育効果があったことは評価される。継続的發展が期待される。
- 実習の最後に行ったボランティアの人たちとの討論や成果発表会が重要であり、学生に深く考えさせるように仕向ける工夫が欲しい。また、フィールドワークを1回だけで終わらせず、テーマを違えて2回以上体験することでさらに効果があがる。